

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2014.07.No203

7月号

目次

第39回 一般社団法人 北海道建築士会 全道大会(旭川大会)へ“皆 来たれ!”……	1
実行委員会報告……………	5
〔会員増強特別・ヘリテージマネージャー特別〕	
青年・女性の窓……………	6
〔青年委員会〕	
支部だより……………	7
〔日高・小樽・富良野〕	
information……………	8

URL <http://www.h-ab.com/>

第39回 一般社団法人 北海道建築士会全道大会(旭川大会)へ “皆 来たれ!”



大会テーマ 「都心 ルネッサンス」
サブテーマ -氷点のまち 輝くみらい-

第39回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

一般社団法人北海道建築士会 旭川支部 支部長 石川 吉博

第39回北海道建築士会全道大会は、平成5年の全国大会以来21年振りに、旭川市において開催されるはこびとなりました。旭川は、北海道の内陸部に位置しながらも、道内各地からの新鮮な海産物や、豊富な農産物の集散地として、確固たる地位を築いており、ラーメン、日本酒など、全国にも誇れる「食のまち」としての顔を持っております。

また、今やその知名度も全国区となりました旭山動物園を抱え、周辺の景勝地や温泉地などと相まって、『観光のまち』としてもその名を馳せるようになりました。

今、建築士の資質の維持・向上及び業務環境の改善と共に会員増強の推進が重要課題ではありますが、現実的には、全国の建築士登録数約111万人のうち建築士会の会員数は、約8万7千人であり、全体の8%にすぎない事実もしっかりと見極める必要があります。このことを踏まえたと、例えば、会員一人一名の勧誘活動を行うなど、積極的そして継続的に取り組むことが重要と考えております。

東日本大震災の復興が依然として進まない中、さらに「西日本大震災」と「平成関東大震災」といわれる二つの巨大地震が極めて高い確率で発生するといわれております。我々建築士の責任は極めて重大であり、同時に、社会の発展のため最新の指導者であり、地域社会のトップリーダーとしてその職責を果たすことが使命であります。

旭川出身の小説家三浦綾子氏の代表作『氷点』が発表されてから50年、奇跡の復活を遂げた旭山動物園に学び、都心の再生をテーマに市民と共に歩む大会を、めざしております。

会員の皆様は勿論ですが、ご家族お揃いで是非とも、旭川にお越しいただきますよう、お待ちいたしております。

[大会プログラム]

月 日	時 間	開 催 内 容	会 場
9月26日 (金)	13:00~13:30	青年サミット 受付	旭川市市民活動センター CoCoDe (ココデ)
	13:30~17:30	青年サミット テーマ:『あさひかわの今 ~今の旭川を感じ、 みらいに何が必要か~』	
	18:30~20:30	懇親会	
9月27日 (土)	10:30~12:00	来賓・大会参加者受付開始	ロワジールホテル 1階 ロビー
	11:30~12:30	昼食	ロワジールホテル 3階 「ボールルームⅠ」
	12:30~14:30	分科会 A分科会 (女性委員会)	ロワジールホテル 2階 「パンジー」
		B分科会 (まちづくり委員会)	ロワジールホテル 4階 「ビズルームⅠ」
		C分科会 (青年委員会)	ロワジールホテル 4階 「ビズルームⅡ」
	15:00~16:30	大会式典	旭川市公会堂
16:50~17:50	基調講演	旭川市公会堂	
18:20~20:20	懇親会	ロワジールホテル 3階 「ボールルーム」	

分科会

A分科会 素材のチカラ「木」がマチを再生する！

女性委員会

旭川は古くから林業や家具生産が盛んで「木のまち」とも言われてきましたが、輸入材等に押され、地場産材を利用してきた企業の廃業も増え、一時の勢いは見られません。しかしながら、近年、公共建築の木造化推進などにより、木は再び注目を集めています。A分科会では、旭川を含めた地方都市の都心再生の起爆剤とすべく、「木」に情熱を注ぐキーマン達の議論から、「木」の持つチカラを探っていきます。

B分科会 賑わい from <買物公園>

まちづくり委員会

旭川買物公園から発行されているタウン誌<hoccol (ほっこる)>。このまちを「歩行る」、このみちを「誇る」のふたつの意味があります。

旭川の「誇り」には、大雪山連峰や石狩川などの豊かな自然や美しい四季がありますが、地元の人には気づきにくい文化的・歴史的風土を保つ「資産」も市内の各地に点在しています。そして、各地の「資産」がそこで暮らす市民にとっての「誇り」として、今もしっかりと魅力を放っています。

しかし何といても、都市機能・生活文化面で旭川の「誇り」は、日本で初の恒久的歩行者専用道路である「旭川買物公園」が一番でしょう。

新しい旭川の顔「北彩都あさひかわ」が姿を現しつつある今、40余年旭川の顔であり続けている「買物公園」を基軸に、街中に点在する文化的・歴史的「誇り」であり「資産」であるこれらを結び付け、「まちあるき」という「観光行動」を起こせないでしょうか。

それぞれの賑わいを共有できる「旭川の魅力」の見せ方・魅せ方を一緒に考えましょう。

C分科会 あさひかわのみらい～楽しく賑わう「都心 ルネッサンス」を描く～

青年委員会

大きな4つの川が市街地を貫流する、水と緑豊かな「川のまち」あさひかわ。

かつては賑わいのあった中心市街地も郊外型商業施設等の出店がつづくなど、今では都心の賑わいを感じる事が少なくなりました。

このような“あさひかわ”の、都心の再生（ルネッサンス）に求められているものはいったい何なのでしょうか・・・。

C分科会では、今の“あさひかわ”を深く知り、建築士という立場で、みらいの“あさひかわ”に何が求められているのかを考え、楽しく賑わう「都心 ルネッサンス」のビジョンを熱く想い描いて、旭川駅周辺開発地区である「北彩都あさひかわ」の開発提案を行います。

大会当日「号外」を発行します！

情報委員会は、臨時編集局を設け、前日の青年サミットや大会当日の式典、分科会などの模様を取材します。

「見て、聞いて、感じた」ホットな情報をギュッと凝縮した「号外」を発行します。

ご期待ください。

基調講演

伝えるのは命のかがやき



講師：旭山動物園 園長 坂東 元

「命の輝きを伝える旭山動物園の園長」「ボルネオ保全トラストジャパン理事」1986年から旭山動物園に獣医として勤務、1995年飼育展示係長、2004年副園長、2009年から現職。

旭山動物園に入園して10年後に閉園の危機に見舞われるが、動物本来の能力や習性を見せる「行動展示」を考案し、奇跡の復活をとげ、日本最北の動物園でありながら、国内外から多くの人々が集まる動物園へと躍進させた。

また、近年はボルネオ保全トラストジャパン理事として絶滅の危機にあるオランウータンやボルネオゾウ等を救うために「ボルネオへの恩返しプロジェクト」を立ち上げ野生動物の保護に取り組んでいる。／1961年 旭川市生まれ。53歳

■著書：「動物と向きあって生きる」「夢の動物園-旭山動物園の明日」 共に(角川学芸出版)

青年サミット

あさひかわの今 ～今の旭川を感じ、みらいに何が必要か～

テーマコメント

本大会のメインテーマ「都心 ルネッサンス」。都心の再生、昔の輝きを取り戻したい・・・そんな思いが溢れています。

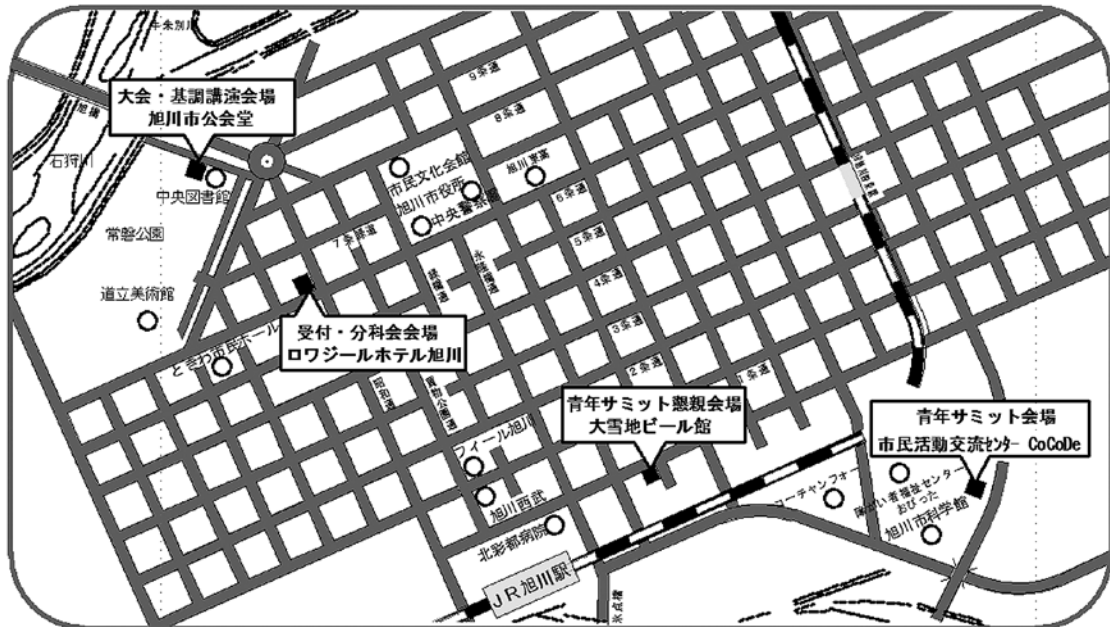
“あさひかわ”は自然に恵まれた四季が明瞭なうつくしいまちです。かつては平和通買物公園に人が溢れた時期もありましたが、今ではそのような都心の賑わいを感じる事が少なくなりました。旭川市では、まちの賑わいを取り戻すために、中心市街地活性化基本計画に基づく様々な施策に取り組んでいます。現在は、鉄道高架化によって新しくなった旭川駅の周辺整備も最終段階を迎え、都心としての再スタートが切られています。しかしながら、都心に賑わいをもたらす「人」が集まらずに何か物足りない・・・と感じてしまいます。我々青年建築士に何かできることはないのでしょうか。

青年サミットでは、まちの散策を通して今の旭川の良さを感じとり、我々青年建築士が行政とタイアップしながら、みらいの旭川のために、何をしなければならないのか、何ができるのかを考え、話し合い、「都心 ルネッサンス」を描くために必要な何かを見つけ出したいと思います。

プログラム

- 13:00～13:30 ■受付
- 13:30～14:10 ■挨拶・説明
- 14:15～15:45 ■まちあるき(移動込み)
- 15:45～16:15 ■休憩
- 16:15～16:55 ■ワークショップ
- 16:55～17:30 ■発表
- 18:30～20:30 ■懇親会

第39回全道大会（旭川大会）会場ご案内



受付・分科会会場	本大会・基調講演会場	青年サミット会場
ロワジールホテル旭川	旭川市公会堂	市民活動交流センター CoCoDe
旭川市7条通6丁目	旭川市 常磐公園内	旭川市宮前通東
TEL 0166-25-8811 (代表)	TEL 0166-25-7331	TEL 0166-74-4151
	専用駐車場 35台	専用駐車場 38台